

## 第 8 回門真市魅力ある教育づくり審議会

### 各部会での意見（まとめ）

#### ○子どもの学ぶ意欲向上部会での意見

- ・ 小学校の英語教育については教師の中でも意見の違いがあつてかなり混乱がある。
- ・ 小学校の英語教育は楽しく英語にふれることが大事である。
- ・ 小学校の先生にも英語に対する拒否感、拒絶感があつて、私たちも一から学ぶのだとことについて、保護者の理解も必要になってくる。
- ・ 英語教育においてドリーム等の教材や教え方、教科書はいいものだと思う。ただネイティブスピーカーであつたり支援員の数というのが絶対的に必要になってくるので、そのための施策が必要である。
- ・ 英語の研修について一律的な研修よりも、ネイティブスピーカーであつたり支援員と一緒に授業をすることによって、ノウハウを吸収していくことで先生達の力量を高めるという方向性の方が現実的である。
- ・ 社会教育、図書館での英語教育について、「めざせ世界へはばたけ事業」はボトムアップにつながるような、応募する生徒がもっと増えるような事業のあり方を検討するべきである。
- ・ 将来的に「めざせ世界へはばたけ事業」に参加した生徒が支援員として学校現場に戻ってきてもらうという循環ができればいい。
- ・ 英語の本を扱ったコーナーをもう少し整備し、イングリッシュカフェのような英語を使って話し合いをするような雰囲気づくりをしたり、DVDを増やしたりといったことも検討していく必要があるのではないのか。

## ○つながりのある教育の創造部会での意見

- ・学校施設について、何といたってもトイレの改善が重要である。
- ・例えば親世代が使っていた机を再利用するアンティークや木の温もりを感じられるリノベーションの手法も検討してもよいのではないか。
- ・オープンスクールの導入により、小中学校の敷地内に、保育所や高齢者施設などが設置されれば、人間が生まれてきて亡くなるまでの生き方なりプロセスが見えてくる学校づくりも良いのではないか。
- ・子どもが減っていく中で、老朽化した建物だけが残っていくのは効率が良くないので、施設を新築しても良いのでは。その際に、従来の画一化された教室ではなく、パーティションを移動して工夫できる教室、地域のボランティアが入って来れる図書館、森や自然を取り入れた環境循環している学校等、新しい学校のあり方も考えられるのではないか。
- ・探究的な学習や主体的な学習が中心となってくる今の時代に合せたような学校施設、多様な活動ができる学校施設、どの子にも居心地が良い学校施設を作ることが重要ではないのか。
- ・世代間、お年寄りや小さな子どもに触れる機会が地域では減ってきているので、そういう場所を学校として提供していくというのが重要である。
- ・教育内容としても、例えば高齢者のバリアフリー、いたわる気持ち、弱者にふれるとか、社会貢献とかみんなを支えていくという社会性が育ってくるのでは。
- ・地域のボランティアの方に学校に入って来ていただくのは、子ども達にとっても、地域の方にとっても良いことだが、学校施設を作る時にどのような形で地域の方が学校に関わるのかという、ある程度距離感を持ちながらうまく関われるような学校施設のあり方を今後検討していく必要がある。
- ・現在も実施しているが地域と学校が連携していくために調整をする協議会の役割が重要で、学校と地域が連携していくことが重要である。